



現場から（最近のニュースから）

つらいことを越えるために



人生には、それぞれつらいことがあります。良いニュースより、悪いニュースの方が多く聞こえて来る不安が多い時代に、つらいことをなくすのではなく、それをどのように越えるのかという記事が多く見られるようになってきました。その中の一つに、元米国ファーストレディのミシェル・オバマさんが、アメリカ社会で「黒人」「背が高い女性」というマイナスのレッテルの中で、どのように越えて来たのか、著書の『心に、光を。不確実な時代を生き抜く』（KADOKAWA）から抜粋している記事がありました。

ミシェル・オバマさんは、お父さんのことばを思い出して超えて来たと言われています。「私の父はよく『自分で気分よくしてたら、だれかにイヤな気にさせられはしない』と言っていた。父は、自分に満足し、自分の価値をはっきりわかっていて、身体は不安定だったけれど心は安定していた」お父さんは、そのことばを心にいつも持っていたので、たいていなんでも受け流すことができ、他人にどう見られているかを気にしていなかったということです。そして、それが人を引きつけたと言われています。「それはある種のゆとりとして表に現れていた——特権や富から生まれるゆとりではなく、ほかの何かに由来するゆとり。それは、もがき苦しんでいたにもかかわらずのゆとりだった。不確かであるにもかかわらずのゆとり。内面からくるゆとり。」だということです。そして、不公平な目にあったときは、大部分は自分ではどうしようもないと認めて、そのせいで意気を挫かれないようにしていたそうです。その代わりに、子どもたち（ミッシェルさんとお兄さん）に幼いころから政治や教育の大切さ、そして、トップを目指すように教えていたということです。お父さん自身も、ずっと遠くを見て、自分がなれないもの、自分が持っていないものには目を向けず、自分がだれで何を持っているのか（愛、コミュニティ、冷蔵庫の食べ物、背が高くてやかましふたりの子ども、訪ねてくる友だち）を基準にして、自分の価値を測っていたそうです。

そのようなお父さんの影響を受けて、ミッシェルさんも、「まずはわたしが自分の足場を見つけ、しっかりと誇りを持たなければならない。自分を隠すのではなく、認めることをわたしは学んだ」ということです。周りからの毒のようなことばは、自分のものではないと、自分は他の人とは違うことをプラスに受けとめていったということです。（10月2日 PRESIDENTonline<つらいことを引きずらないためにはどうしたらいいか…ミシェル・オバマがいつも思い出す「父の言葉」>より）

「自分がだれで何を持っているのかを基準にする」ことにより、他の人のことばや基準に流されることなく、余裕をもって生き、自分の子どもたちにもそれを教えていくことは、すばらしい姿です。ただ、そのために、「自分がだれなのか、何を持っているのか」を自分で見つけて行こうとしても、難しいでしょう。また、それが正確なことでないなら、自己満足にすぎず、自分の世界に閉じこもってしまうことも多いでしょう。だれからも何かの評価も関係なく、揺れない、自分の生きる基準になる「自分はだれなのか。何を持っているのか」という客観的で変わらない事実はあるのでしょうか。その基準を持つために、なにを見ればいいのか、それについてあなたにお分かちしたいのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になるし、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみ的人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださったことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください